



湖と歩み 湖を支える



琵琶湖に生息する魚や鳥、昆虫など多くの生物の繁殖、成育を助けているヨシ原。失われれば生態系が崩れてしまい、湖岸浸食や水質悪化も懸念される。研究員が所属する。

琵琶湖に生息する魚や鳥、昆虫など多くの生物の繁殖、成育を助けているヨシ原。失われれば生態系が崩れてしまい、湖岸浸食や水質悪化も懸念される。研究員が所属する。

ヨシ原

だが、昭和三十〜四十年代の高度成長期以降、急速な都市化や工業化に伴って環境が悪化。治水や利水、環境保全を目的に一九七二年から二十五年間にわたった国家プロジェクト「琵琶湖総合開発事業」で、湖岸に堤防や道路ができ、ヨシ原が大きく失われた。

ヨシ群落再生には、ラーゴ前身の近江花勝造園が一九九三年八月、日本で初めてヨシ

「本来の姿に戻す」 西川博章さん 取締役 ラーゴ



琵琶湖の内湖「西の湖」でヨシの生態を調査する西川博章さん(近江八幡市)

付け、三月から一年かけて茎丈一・五尺になるまで養生する。湖岸の波打ち際にヨシを植栽すると、波で根元が洗われて苗が流失してしまう。こうなると群落再生は難しいが、マットはヨシを定着させる効果があり、湖岸や沼地など二百力所でヨシ再生に使われ、効力を発揮している。

「マット工法」が役立つ。ヨシ原では、近江八幡市内にある約千八百発された手法で、ヤシ平方尺のほ場で、ヨシ繊維に植物の苗を植えるのマット作りを手掛け付け、短期間で多くのヨシの苗を平方尺のマットに植えることが必要。本来の琵琶湖の姿に戻すためにも「この思いは強まらばかりだ。」

群落再生 生物保全に光

西川博章さん(西)は「ヨシ原の保全と再生は琵琶湖の生物を守る重要な役割を担う」と話す。

ラーゴは、ドイツ語

- 大津支局
大津市京町四丁目
(〒520-0044)
077(523)3388
FAX 077(524)4447
- 彦根支局
彦根市古沢町661の2
(〒522-0007)
0749(22)1234
FAX 0749(24)5112
- (広告) (23)4018
- 長浜通信局
0749(62)0436
FAX 0749(62)0437
- 近江八幡通信局
0748(33)3456
FAX 0748(33)3416
- 甲賀通信局
0748(62)0347
FAX 0748(62)0459
- 東近江通信部
0748(22)0331
FAX 0748(24)0702
- 草津通信部
077(562)0620
FAX 077(565)9359
- 木之本通信部
0749(82)3050
FAX 0749(82)4821
- ニュースは上の電話へ
- 読者センター
052(221)0800

曾田晋太郎
おわり